

コミュニティ・スクール懇談会 第11回 2/27(金) 開催

第11回目は、「対話と協働の場を目指して～原中PTA 令和6,7年度の活動から～」というテーマで原中学校 PTA の活動について話をお聞きました。発表者は、令和6,7年度原中学校 PTA 副会長、令和6年度長野県 PTA 連合会副会長の樋川善史さんです。

1. 活動の背景と理念

教育基本法第13条が示す「学校・家庭・地域の連携協力」の具体化に注力。文部科学省がコミュニティ・スクールを推進していく中、今後のPTAの意義やありかたが問われている。地域に開かれたコミュニティ・スクールに対して、任意のボランティア団体であるPTAはどんな活動をしていけばよいのかというテーマのもと、様々な活動を行ってきた。

2. 多角的アプローチの実現

①大人同士のコミュニケーション

「PTA カフェ」や「駅伝部」を通じて、あえて子どもを介さない大人同士（保護者⇔教員）の交流を作った。これにより、敬意と感謝をベースにした人間関係が築かれ、教育に関する対話がスムーズになる土壌を整えた。

②職業人・専門家として学校に関わる

自身の建築業を生かし、役場や住民の協力のもと「断熱改修ワークショップ」を行った。また、大工の技術を生かした学校看板の修繕など、地域住民が学校環境にかかわる仕組みを作った。学習塾の経験を生かした「大人の算数教室」や留学体験談の共有など、学びの場を広げる活動も行った。

③教育、地域の未来についての対話

村長・教育長の子育て対談を実施。原村の特色をどう教育に生かしていくかといった内容でお話していただいた。また、原中学校では、村を知り学ぶ「原村学」という学習が約8年続いている。地域を学ぶ上で、地域住民の協力なしでは成立しない学習であり、今後も保護者や地域住民が今まで以上に積極的に関わりさらなる発展を目指していきたい。

④子どもと保護者、子どもと地域住民の対話

児童会や生徒会の子どもたちと、保護者や地域住民の方との交流会を実施。それぞれの活動や考えを発表し合い、相互の理解を深めた。

⑤組織の最適化と広報

時代に合わないPTA会則の変更を行い、PTA活動においてはデザインツール（Canva）を活用し、目を引きわかりやすい広報配信を行い、活動の周知を効率的にし参画のハードルを下げた。

3. まとめ

対話は敬意と感謝をベースに、言いたいことをただ言い合うだけではなく、対話を通じて自らも成長し、みんなでそれを積み重ねながら相互に理解を深め学校に関わっていく形を目指す。そして、その学校での活動を通じて地域を豊かにすることに繋がりたい。誰かに任せるではなく、保護者の側から行動を起こしていくよう今後も活動を続けていきたい。